

・改めてコーチングをしていることについて最初に話題の共有がされた。ここで触れられた時はある一定の期間ごとに思い返そうと思う。

私が話したセッションでは相手が何をもっていったのか全くわからん、という話をした。

5分と短い時間ではあったが、何を考えているかがわかった（ついでに結構しょうもなさそうな理由であった）、というのは自分の中でのもやっとしたことが解けてよかったと思う。

ただ、結構しょうもない理由とって一蹴するのは簡単だが、そこにも一分の理はあると思っておかないと今後も同じようにわけわからんといってイライラするだろうと思う。

私自身全く観察力がないとは思わないけれども、接する人のパターンが割と狭い範囲なので、世の中には理解はできなくても色々な人がいて、こういう考え方もあるのだな、と認識するだけでも今後の人付き合いをやっていく上では大事だと思う。

他のセッションでは有資格者しかできない仕事を蔑ろにされている、という話。

おそらくクライアント自身が軽視されているだろう、という結論となっていた。

実際はそうなのかは確認しないといけないものの、まあそういう可能性が高いのだろう。しかし、全くクライアントが軽視され

ているという選択肢が私の中から出てこなかった。

相手の話を先入観なく聞くことは大事で、コーチの視野が狭いせいで本来したかった話ができないというのはコーチングでは望ましくないことだと思う。

いつも、背景について考えなきゃ、と感想で書いているような気がするけれど、まだまだできていない部分が多いなと感じる。